

事業内容：防災に関する指導方法等の開発・普及などのための支援事業

学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名：命の大切さを考える防災教育公開事業（避難所対応）

—命の大切さを考える力をはぐくむ指導方法の工夫—

～防災教育及び命を大切にする教育～

所属・電話番号：流山市立東部中学校・04-7144-3514

校長 岡 林 秀 樹

### 1 実施事業

(1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業」

(2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

### 2 事業概要

(1) 避難訓練をとおして、避難方法の改善を図り、施設、設備の改善点を探る。

(2) 避難所開設・運営訓練を地域の方々と合同で行うことをとおして、避難所の実態を知るとともに、中学生が避難所でできることを考え、関係者が課題の共有及び改善方法の協議を行う。

(3) 救急法の技術を多くの生徒に習得させ、緊急時の対応力を向上させる。

(4) 地震・防災の専門家を招聘し、講話・実習による指導を受け、防災教育、防災管理、組織活動の充実を図る。

(5) 防災マニュアルを実際に合わせて再点検し、見直しを行う。

### 3 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	避難訓練	生徒・教職員
5月	避難訓練	生徒・教職員
	担当者連絡会議	実践委員
6月	校内研修会	生徒・教職員
	避難訓練	生徒・教職員
	救急法講習会	生徒・消防署員
	担当者連絡会議	実践委員

7月	防災授業 避難訓練	生徒・教職員 生徒・教職員
9月	担当者連絡会議 地域合同防災訓練	実践委員 防災アドバイザー 地域住民 生徒・教職員
10月	校内研修会 避難訓練 地域公開事業	生徒・教職員 生徒・教職員 防災アドバイザー 地域住民 生徒・教職員
11月	避難訓練	生徒・教職員
12月	避難訓練	生徒・教職員
2月	避難訓練	生徒・教職員
3月	避難訓練	生徒・教職員

### 4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	鈴木孝明	千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導主事
2	大重基樹	流山市教育委員会 指導課長
3	鈴木紳一	流山市役所市民生活部 防災危機管理課長
4	今井隆明	流山市役所市民生活部 コミュニティ課長
5	笠井善亮	本校教頭
6	町田広二郎	本校PTA会長
7	野路丞一	流山東部地区自治会 連合協議会事務局長

## 5 具体的な取り組み

### (1)災害時における傷害に対する対応

#### ①救急講習会

##### ア ねらい

- ・災害時に緊急を要する傷害などに対し、応急の対処ができるようにする。
- ・できるだけ多くの生徒が技術を身につけ、地域・家庭で対応ができるようにするために、東部中学校3学年生徒全員に「普通救命講習修了証」を取得させる。

##### イ 内容

- ・全体講習（VTR）・・・・・・・・ 1時間
- ・実習①（心肺蘇生法・胸骨圧迫・人工呼吸）・1時間
- ・実習②（AED）・・・・・・・・ 1時間

##### ウ 計画

- ・講習計画 60分×3回
- ・期間 6月6日～6月19日
- ・場所 東部中学校体育館及び武道場
- ・講師 流山東消防署員 流山市消防団  
流山市救急ボランティア
- ・対象 東部中学校3学年生徒193名
- ・使用する時間  
保健体育の時間及び総合的な学習  
の時間6学級×2+1 延べ13時間

##### エ 講習等

- ・1時間目はVTRにより全体講習を行い、総合的な技術について学ぶ。
- ・2時間目以降は講師の方が4～6名来校し、生徒5～6名を1人の講師が担当し、実習する。



- ・3時間目にはAEDを使った救急対処法を学ぶ。



#### ②地域合同防災訓練による応急処置法

##### ア ねらい

- ・下級生及び地域の方々にも技能を伝達し、技術・知識を広める。

##### イ 内容

- ・救急法（三角巾、止血法、RICE処置、熱中症対応）
- ・AED救急法（心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸、AED処置）

##### ウ 計画

- ・期間 9月14日
- ・場所 東部中学校体育館及び武道場
- ・講師 東部中学校3学年生徒26名
- ・対象 東部中学校1, 2学年生徒43名  
及び流山東部地域住民の参加者

##### エ 訓練等



- ・訓練は3学年生徒がリードして行い、1学年・2学年及び地域の任意の参加者に対し、繰り返し行われ、できるだけ多数の人に技術の伝達が行われた。

## (2) 防災訓練年間計画（避難訓練）

### ①ねらい

- ・いつ起こるか分からない地震に備えて、いつ、どんな場所においても、第一次避難を安全に行うことができる能力と態度を育成し、災害から自分の身を自分で守ることを目的とする。
- ・「落ちてこない。倒れてこない。移動してこない」場所に素早く身を寄せて安全を確保する。



### ②月ごとの予定

月	想定する状況	災害の種類
4	授業中	地震
5	部活動中	地震
6	昼休み中	地震
7	休み時間	地震
9	授業中	地震に伴う火災
10	部活動中	地震に伴う火災
11	昼休み中	地震に伴う火災
12	帰りの会	地震に伴う火災
2	休み時間	地震
3	授業中	地震

### ③訓練内容

- ・地震の発生とそれに伴う火災発生を想定して実施する。
- ・地震発生・火災発生放送連絡により、避難経路に従って避難させ、校庭で整列、点呼を行う。(ワンポイント訓練の場合は

第一次避難まで)

- ・様々なケースを想定して月に一度実施する。



## (3) 小中集団下校

### ①目的

緊急時に中学生が小学生を守り、安全に帰宅する訓練を行う。

### ②日時

7月19日(金)

東小 11:10 向小金小 11:35

### ③方法

- ・下校開始約25分前に小学校に中学生が到着。東小6グループ、向小金小4グループに分かれる。
- ・事前に小学校の下校ルートに合わせて、中学生をグループに分けておく。
- ・中学3年生の代表生徒が整列隊形を確認し、学年・グループを記載したプラカードを掲げ、小学生を学年別に1列に並べる。
- ・全体で3年生代表が挨拶、話をし、出発する。出発のグループ順は小学校の計画に合わせる。
- ・職員の動きについては小中学校で事前に調整し、担当するコースを決めておき、グループに同行もしくは危険箇所で見守る。
- ・全生徒が下校完了したことを確認した後それぞれの小学校に戻り、全体確認後終了する。



#### ④事前準備

##### ア 中学校

- ・各小学校区生徒のグループ分け、リーダー決めを行う。
- ・リーダー指導（当日の活動内容の確認と心構え作り）

##### イ 小学校

- ・タイムスケジュール作成、確認。
- ・グループ別集合場所（校庭）の確認。
- ・集合時の隊形、整列方法の確認。
- ・下校順、下校する門の確認。
- ・各コースの配置職員確認。
- ・保護者へのお知らせの配布。



#### （４）地域合同防災訓練

##### ①準備の動き

- ・東部地区大規模災害時対応シンポジウム
- ・日時 1月27日13:30～
- ・会場 松ヶ丘自治会館

##### ②地域合同防災訓練準備委員会

- ・4月より毎月実施 計4回

#### ・参加者

流山市役所市民生活部コミュニティ課  
 流山市役所市民生活部防災危機管理課  
 流山市教育委員会指導課  
 流山市東部地区自治会連合協議会事務局  
 東小学校 向小金小学校  
 東部中学校PTA 東部中学校

#### ③当日の実践

- ・9月14日（土）  
8：30～12：30
- ・会場 流山市立東部中学校



（仮設ベッドづくり）

#### ④日程

8：30	避難開始
8：50	受付
9：00	開会行事 校庭
9：20～11：00	訓練（活動）
11：15	閉会行事 校庭
11：30	解散 後片付け
11：45	反省会 運営委員会

#### ⑤活動内容

避難所運営	避難者カード リスト	校庭
避難所運営	車椅子、 アイマスク	校庭
避難所運営	仮設トイレ	体育館
避難所運営	仮設ベッド	体育館
避難所運営	間仕切り	体育館

避難所運営	救急法	武道場
避難所運営	AED・救急法	武道場
避難所運営	消火活動 (消火器) (バケツ) (放水)	校庭
自助活動	簡易かまど	校庭
自助活動	炊き出し	校庭
自助活動	ロープワーク 起震車・煙体験	校庭
自助活動	土のう作り 起震車・煙体験	校庭



(簡易トイレ作り)

### (5) 公開授業

年組	教科	単元名
1 学年	総合的な学習の時間	地域防災マップづくり
2-1	数学	一次関数の利用
2-2	理科	日本の気象
2-3	英語	A Work Experience Program
2-4	道徳	やがて防災無線が途切れた
2-5	保健体育	応急手当
3-1	道徳	君の存在は無二
3-2	学級活動	大地震に備えて
3-3	国語	無言館の青春
3-4	社会	現代の民主主義
3-6	理科	土の中の生物のはたらき

### ・ゲストティーチャー

福岡大学理学部地球圏科学科 西 憲敬准教授  
 東京大学大学院農学生命科学研究科附属  
 演習林教育研究センター 前原 忠助教



### (6) 防災講演会

演題「大地震から何を学ぶのか？」

～学校・家庭・地域で命を守るために～

講師 前地震噴火予知研究観測センター長  
 東北大学リーディング大学院 海野徳仁教授

東日本大震災を中心に過去から現在に至るまでの地震を分析し、そのメカニズムに迫ることで、これから自分たちがどのような対策を立てていく必要があるのかを講演していただいた。

講演内容

- ・震災とは？
- ・地震に対する心構え。
- ・地震列島の住民として  
発生後 3分間→自助  
3時間→共助  
3日間→公助
- ・地震と断層によるタイプ。
- ・地震発生の原動力は？
- ・津波の発生機構と現在わかること。
- ・今後の地震学の展開について。
- ・超巨大地震と火山の噴火。
- ・まだわからないことと地震学への批判。
- ・これから目指すべきモデルの改良と新しい考え方。

## 6 成果と今後の課題

### (1) 成果

#### ①避難訓練における成果

- ・通常の避難訓練では、安全、かつ、迅速な避難ができるようになった。生徒の意識も高まり、避難時の約束事も徹底されるようになった。
- ・訓練を積み重ねることで、スムーズな活動ができるようになった。
- ・予告なしの避難訓練であっても、防災学習の成果によって生徒の防災意識が高まり、真剣に取り組むことができるようになった。
- ・教室にいるとき、廊下にいるとき、体育館にいるとき、グラウンドにいるとき等の、災害発生時における的確な第一次避難の仕方を覚えることができた。
- ・毎月想定を変えて行うことで、学校生活のほとんどの場面で、かなり速やかに実質的な避難を行えるようになった。

#### ②救急法における成果

- ・救急法の技術を習得し、生徒は自信を持って緊急時の対処ができるようになるとともに、地域・家庭の信頼が高まった。

#### ③小中集団下校における成果

- ・小中集団下校により、保護者が引き取り困難な場合の中学生による自宅までの誘導過程を訓練することができた。
- ・地域の一員としての意識が持てた。
- ・中学生と小学生の交流が多く見られた。
- ・リーダーとしての自覚ができた。
- ・小学生の面倒を見るという気持ちが表れていた。

#### ④地域合同防災訓練における成果

- ・地域住民と生徒が、様々な活動を通して協力する姿は、自助から共助へのつながる確かな一歩となった。
- ・中学生が避難時に大きな力を発揮できる

ことが地域住民に理解され、避難所運営に欠かせない一員であることが示せた。

- ・防災訓練を通して、災害時に当該中学校が果たす役割や機能について、生徒及び地域住民が理解した。
- ・3年生がリーダー性を発揮して、グループをまとめながら活動することができた。
- ・避難所運営に於いて中学生と共にできる多くのコンテンツを訓練することができたことにより、地域における災害時の認識を大きく変え、自覚を高めることに大いに役立っていた。

### (2) 課題

- ・避難訓練に慣れることで、真剣味に欠ける生徒の行動が表れることがあるので、訓練であっても真剣さを失わないよう指導していきたい。
- ・避難訓練を行えば行うほど一時避難の困難な場所があることが認識され、本当に命を守る為の工夫と改善が必要である。
- ・救急法の技術は繰り返し行わないといけないのでその機会を確保する必要があることと、技術を更に広めなければいけない。
- ・小中集団下校では、信号の関係で、小学生だけや中学生だけで歩いているグループがあったので、中学生をもう少しちりばめて下校させた方が良い。
- ・1グループの人数が多く長蛇の列になり安全面での配慮が必要。
- ・緊急時の自宅への誘導は家庭によりニーズが異なるので更に研究が必要である。
- ・地域合同防災訓練はある程度の期間内に行っていく必要があり、そのあり方について地域と一体になって研究を続けることが重要である。
- ・各活動での工具等の使い方や、火のおこし方を指導し、再度体験させる。